流通科学大学論集―人間・社会・自然編―第 30 巻第 2 号，45-64（2018）

大学英語授業における「宝地図」活用法に関する研究（２）

Research on Integrating “Treasure Map” into a College English Course（2）

濱田　真由美*
Mayumi Hamada

本研究は CLIL（内容言語統合型学習）を用い英語教育とキャリア教育を統合した試みについて論じたものである。夢を可視化する自己実現ツールである「宝地図」[1)]が、人生に対する考え方と英語に対する学習意欲に変化をもたらすかを検証した。アンケート結果からは、「宝地図」は自尊感情を高め、生き方を肯定的に変化させる効果があることが明らかになった。また、英語学習意欲を高める可能性があることも示唆された。

キーワード：宝地図，キャリア教育，自己実現，CLIL，学習意欲

Ⅰ．はじめに

近年、日本の青少年は諸外国に比べ将来に夢を持てず自己肯定感が低い状況であることが報告されている。平成 25 年度に実施された日本を含めた 7 カ国（日本、韓国、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、スウェーデン）の満 13～29 歳の若者を対象とした意識調査によると、「私は自分自身に満足している」と答えたのは、他の諸外国では 70%を超えているのに対し、日本ではわずか 45.8%にすぎなかった。「自分の将来について明るい希望を持っていますか?」という質問に対して「希望がある」と答えたのは 61.6%、「自国の将来は明るいと思いますか?」に対して「そう思う」と答えたのはわずか 28.8%で、いずれも 7 か国中最下位であった。さらに、諸外国と比べて意欲的に取り組むという意識も一番低く、つまらない、やる気がでないと感じる若者が多い[2)]。約 4 割近くもの日本の若者が将来への希望を持てないという結果は憂慮すべき状況であろう。

この背景にあるのは、情報技術革新によってもたらされたグローバリゼーションである。産業の構造的変化に伴い雇用の流動化や多様化が進み、日本企業はグローバル事業の展開を加速することを余儀なくされ日本経済に多大な影響が及んでいる。

2016 年度の総務省労働力調査基本集計によると、2016 年の若年層（15~34 歳）の完全失業率は 4.5%、フリーターは 182 万人に上った[3)]。また、卒業後 3 年以内の離職率は 2013 年 3 月新規学校卒者のうち大学卒で 31.9%、短大卒では 41.7%にまで達しており[4)]、終身雇用制度や年功序列の崩壊で安定した生活を期待することができなくなり、さらに人口減少問題と少子高齢化も伴い、

*流通科学大学商学部、〒651-2188　神戸市西区学園西町 3-1

（2017 年 8 月 25 日受理）
©2018 UMDS Research Association

自分の将来に向けて希望や夢を描くことは難しくなってきている。

昨今、キャリア教育の重要性が叫ばれるようになった大きな理由の一つに、このような社会環境の変化が大きく影響している。文部科学省（以下、文科省）による「キャリア教育推進の手引」の中には、キャリア教育の枠組みの 1 領域として「将来設計能力」が掲げられており、「夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する」力を育むことを目標としている [5)]。

また、「大学におけるキャリア教育のあり方」（平成 17 年）の中でも「夢や目標を持ち、キャリアビジョンを描いて自己実現する」(p.11)ことが学生に期待される姿として挙げられている [6)]。

一方、グローバリゼーションに対応すべく、英語教育においても大きな変革が行われている。2013 年に発表された「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」に沿って、小・中・高等学校を通じた英語教育改革が現在進められている。また、大学受験においても英語の試験問題は大きく変更され、2020 年度からはセンター試験に代わって記述問題も含めた 4 技能を評価される新試験が導入される予定である [7)]。

2014 年 10 月に公表された「今後の英語教育の改善・充実方策について報告（概要）～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～」の中では、日本の将来にとって英語力の向上の必要性だけにとどまらず、英語力を活用して「主体的に課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成」も掲げられている [8)]。

本研究は、このような時代のニーズに対応すべく、CLIL（Content and Language Integrated Learning: 内容言語統合型学習）というアプローチを用い、英語教育とキャリア教育を統合した新しい大学授業の試みに関する研究である。夢や目標を可視化する自己実現ツールの一つである「宝地図」を大学英語授業に導入することで、夢を描く力、人生に対する考え方、そして英語に対する学習動機にどのような変化をもたらすかを、前年度の研究に引き続きさらに検証していく。

Ⅱ.「宝地図」とキャリア教育

「宝地図」とは画用紙やコルクボードなどに、自分の夢や目標、手に入れたいもの、訪れたい場所、将来の理想の姿などをイメージさせる写真や言葉を貼りレイアウトする自己実現、目標達成のためのツールの一つである。「宝地図」の他にも「ドリームマップ® [9)]」、「ビジョンボード」など呼び方は複数あるが、夢や目標、願望や将来の理想像などを明確にするために、言葉だけではなく写真や画像をレイアウトするという点で共通している。この点が、目標を紙に書いて壁に貼ったり、計画表や手帳を利用するなどの従来の方法とは決定的に違っている点である。

「宝地図」が自己実現ツールとして効果的であるのは、以下のような理由が挙げられる。

一つ目の理由は画像の利用にある。画像や映像などのイメージ情報は右脳が、文字や言葉の認識は左脳が司っており、情報を映像で覚える右脳記憶は、言語による左脳記憶に比べ、処理速度

が速く、膨大な量の情報を記憶することができるとされている。また、Paivio（1986）の二重符号化説によると、イメージと言葉を比べた場合、イメージの方が長期記憶に残りやすく、イメージと言葉を両方使用するほうが片方だけ使用するよりも効果的である[10)]。夢が叶わない理由の一つに夢が曖昧で明確でないことが挙げられるが、画像を使って夢や願望を可視化するツールである「宝地図」は、言葉だけで夢や目標を書くよりも明確に細部まで記憶に残りやすいため、効果的であると考えられる。

「宝地図」の効果を説明する第 2 の理由はビジュアライゼーションによる影響である。ビジュアライゼーション（visualization）とは、「ある状態や出来事を、頭の中で思い描くこと、イメージすること」であり、脳は実際に起こっていることとイメージしていることが区別できないことが、Pascual-Leone, Amedi, Fregni, & Merabet（2005）の経頭蓋磁気刺激法（TMS）を用いた研究の中で報告されている[11)]。この脳の特性を利用したイメージトレーニングはスポーツ選手のパフォーマンスを高めるため既に広く利用されており、ビジュアライゼーションのみで筋肉強化が可能であることも多くの研究により実証されている（Ranganathan, Siemionow, Liu, Sahgal, & Yue, 2004; Shackell & Standing, 2007; Yao, Ranganathan, Allexandre, Siemionow, & Yue, 2013; Yue & Cole, 1992）[12) 13) 14) 15)]。

ビジュアライゼーションは気分や考え方にも影響を及ぼす研究結果が、近年注目されているポジティブ心理学の分野でも報告されている。King（2001）の研究では、大学生に人生の夢が全て叶った理想の人生を想像させ、毎日 20 分間、4 日間続けて最高の自分について書くように指示した。3 週間後に行われたアンケートでは、人生の辛い出来事について書いた参加者に比べると、毎日理想の人生を想像して書いた参加者は、より幸せを感じ、ポジティブで楽観的であるという結果が得られた[16)]。将来の最高の自分をイメージすることや感謝できることを書き出すことは、幸福度や健康を向上させることに影響することが他の研究でも報告されている（Lyubomirsky, Dickerhoof, Boehm, & Sheldon, 2011; Seligman, Steen, Park, & Peterson, 2005; Sheldon & Lyubomirsky, 2006）[17) 18) 19)]。

「宝地図」を用いて夢や目標を既に叶えた理想の自分のイメージを繰り返すことで、脳では実際に成功した時と同じような錯覚が起こり、セルフイメージや自己肯定感を高める効果があると推測できよう。

3 つ目の理由は選択的注意と呼ばれる、情報の一部だけを選択することで脳が効率的に処理するための機能である。我々の脳は、五感を通じて入ってくる膨大な情報のすべてを一度に認識し処理することは不可能であるため、重要だと思う情報だけを選択し優先的に処理している。「宝地図」は画像と言葉を使って夢を可視化することで、これまで漠然としか考えていなかった夢や目標を明確化させ、選択的に注意を向けさせることが可能である。その結果、注意を向けた対象に関する情報を探し出すよう脳に指令が伝達され必要な情報を認識するができるようになるため、

行動にも影響を与える可能性が高まると考えられる。

「宝地図」が効果的である第 4 の理由はプライミング効果と呼ばれるものである。プライミング効果とは先行する刺激（プライマー）の処理が、後の刺激（ターゲット）の処理を促進あるいは抑制させる効果のことで、あらかじめ、ある情報や事柄を見聞きしておくことにより、別の事柄が思い出しやすくなったり覚えやすくなったりする作用のことを言う。

Shantz & Latham（2009）による研究では、マニュアルにランナーがゴールした写真をプライマーとして使用した従業員のグループは、使用しなかったグループより多くの資金を集めるという結果が得られた[20]。また、Bargh, Gollwitzer, Lee-Chai, Barndollar, & Trotschel（2001）による言葉をプライマーとして使用した研究では、成功、勝利、達成などの語をプライミングされた実験群の参加者は、後続の単語探しパズル課題の遂行が統制群の参加者よりも高くなった[21]。これらの結果は、外的な環境からの刺激によって動機づけが無自覚に起こり、人間の行動に影響を及ぼすことを示している。このような無自覚に生起する動機は「自動動機」（Auto-motive; Bargh, 1990）[22] と呼ばれており、プライミング効果の研究は近年、盛んに行われている（Bargh, Chen, & Burrows, 1996; Bargh, Lee-Chai, Barndollar, Gollwitzer, & Trotschel, 2001; Oikawa, 2005）[23][24][25]。

プライミング効果は、一般的には被験者がプライミングされている自覚がないことが条件であるが、「宝地図」をプライマーとして使用し自分自身をプライミングすることも可能であろう。「宝地図」をいつも目につく場所に置くと、最初は意識的に眺めていたとしてもしばらくすると注意が向かなくなり、「宝地図」が無意識的な影響を与えるプライマーとして作用し始める。その結果、「自動動機」が生起し、本人が自覚しない目標追求行動が喚起されると考えられよう。

年齢に関係なく誰でも簡単に楽しく夢を可視化できる教育ツールとして、近年、「宝地図」やドリームマップがキャリア教育の一手法として教育現場に導入される動きも広まっている。

「宝地図」は船橋市立南本町小学校や船橋市立行田西小学校をはじめ、小学校での特別授業やキャリア教育にも活用されている[26][27]。また、公教育以外でも、親子で「宝地図」を作るセミナーの開催や難関大学合格のために「宝地図」を利用している英語専門塾・武蔵ゼミナールの例など、様々な教育機関で開催されている[28]。

「国語・算数・宝地図」をモットーに掲げ「宝地図」の普及に取り込んでいるヴォルテックス有限会社は、2025 年までに 2000 校で「宝地図」授業の実現に向け、教員向けの「子供達の夢を育てる、夢を叶える宝地図セミナー」を 2015 年から無料で開催している[29]。また、漫画教育と「宝地図」を組み合わせたキャリア教育セミナーの試みも始まった[30]。

ドリームマップは、一般社団法人ドリームマップ普及協会によって推進されており、主に小・中学校を中心にこれまで広がってきた。「学校ドリームマップ授業平成 28 年度実施報告書」によると、2016 年度には小学校から大学、専門学校、特別支援学校まで、合計 227 校で 16,198 名がドリームマップ授業を受講した[31]。これまでの取り組みと功績を称えられ、2017 年度には、一般社

団法人ドリームマップ普及協会は経済産業省が主催する第 7 回キャリア教育アワードで優秀賞（中小企業の部）を受賞した[32]。オリンピック開催の 2020 年までに「ドリマプロジェクト 2020」と題して、世界中で 1,000 名のドリマ先生[33]（ドリームマップを進行する講師）の達成を掲げている[34]。

大学での取り組みも年々広がりを見せている。濱田（2016）は 2012 年から「宝地図」を流通科学大学での英語授業に組み込んでおり[35]、名城大学の船田（2012）はアメリカ文化研究の一環として「宝地図」を言語学的に解説し「宝地図」をゼミの授業に取り入れている[36]。

慶應義塾 SDM 研究科が 2015 年に主催した「夢を描くワークショップ体験会」ではドリームマップ作成が行われた。その他でも愛知大学、専修大学、名古屋大学などでもドリームマップ講座が開催されている。愛知教育大学では 2017 年度の「キャリアデザイン I」の授業で、1 年生約 150 人対象にドリームマップ講座が開催された[37]。また、2016 年 8 月には、慶應義塾大学 SDM ヒューマンラボ主催により『「夢と未来を描き可視化する手法」のシンポジウムと体験会～ドリームマップ、宝地図、ビジョンボード～』が開催された[38]。

図 1．学生が作成した宝地図の一例

Ⅲ．研究目的

上述したように、夢や目標を可視化するツールである「宝地図」やドリームマップは日本の学校教育でも普及の兆しを見せているが、研究はまだ始まったばかりで文献は極めて少ない。Takatsuna & Shimizu（2015）の研究によると、ドリームマップが小・中学生のキャリア発達の促進に一定の効果を生むことが明らかになった[39]。

CLIL を用い「宝地図」を英語教育と結びつけた例はこれまでほぼ見当たらず、濱田（2016）の 3 年間の取り組みをまとめた研究がおそらく最初のケースであろう。濱田（2016）の研究では、CLIL プログラムとして「宝地図」を導入することにより、学生の夢を描く力や自己肯定感を高め

る可能性があることが示唆された。また英語学習への動機や意欲も高まったことが示された。

本研究の目的は、濱田（2016）の研究を踏まえ、「宝地図」が人生に対する考え方と英語学習意欲にどのような変化をもたらすかをさらに詳しく検証することである。前回に引き続き以下の研究課題を設けた。

1.「宝地図」は学生の夢を描く力や人生に対する考え方にどのように影響を与えるか?
2.「宝地図」を CLIL プログラムとして英語授業に導入することにより、学生の英語に対する学習意欲が高まるか?

Ⅳ．研究方法

１．参加者

流通科学大学、後期英語選択科目「英語で学ぶ成功哲学」（新カリキュラム名は「英語プレゼンテーション」）を 2016 年度に受講した学生 30 名のうち、「宝地図」を作成、発表し、且つアンケートに回答した 22 名（男性 13 名、女性 9 名）のデータが分析に用いられた。学生の英語習熟度に関しては、TOEIC®において 300 点弱～800 点を越える学生まで、かなりの幅があった。

２．CLIL を使ったコースデザイン

CLIL とは Content and Language Integrated Learning（内容言語統合型学習）の略語で、「母語以外の言語を用い、教科内容と言語の両方を学習し教える教育的アプローチ」[40]のことを言う。教育・学習プロセスにおいて教科内容と言語に同等の重きを置き、両者を統合して科目内容を指導することにより、科目知識、語学力、学習スキルの向上を図るものである。

CLIL の特徴は Content, Communication, Cognition, Culture で構成される「4 つの C」と呼ばれる枠組み（Coyle, Hood & Marsh, 2010）である。Content とは取り上げられる教科科目や内容の事を指す。Communication は内容を学ぶ手段としての言語を使用し学習することを指す。Cognition とは学習プロセスおよび思考プロセスのことで、CLIL では思考力を高める課題が頻繁に与えられる。Culture は異文化理解を深め国際理解を促進するという広義の意味だけでなく、グループ内や学校内などのコミュニティーにおける他者の理解、学び合いや教え合いを通じての協学という、狭義の意味での解釈も含まれている。これら「4 つの C」を用い、教科学習と言語学習を統合している。本研究では、前研究と同様、以下の「4 つの C」に沿ったコースをデザインした。

Content ― 夢や目標を明確にし、「宝地図」を作成し、口頭発表する。

Communication ― 英語を用い、4 技能全てを使う課題に取り組む。

Cognition ― 夢や目標を明確にするために自分の内面を見つめる質問に答える。

Culture ― グループディスカッションや口頭発表を通じてお互いに学び合い、他者理解と自己

理解を深める。

学生の夢や目標、興味を引き出すための質問とワークシートを作成する際には、「Be-どういう自分になりたいか?」「Do-どういう体験をしたいか?」「Have-何を所有したいか?」という 3 つの分野を網羅した。また、学生の英語力にかなりの差があったため、ワークシートは日本語と英語の両方で記述できるように作成し、各学生の能力に応じて、日本語と英語を使用する比率を自由に選択できるように配慮した。

レッスン数に関しては、受講者数が増加したため、準備期間と発表期間を前年度よりそれぞれ 1 週ずつ追加し、合計 12 週とした。

ａ．準備期間（第 1 週～第 7 週）

授業中のディスカッションの準備として、学生が自分自身を見つめ内面に注意を向ける時間を十分とれるよう、授業外で取り組む課題を毎週与えた。授業中には、グループやペアで答えを発表、共有させることで、自己開示と他者理解を促すよう試みた。また、Facebook（以下、FB）で秘密のグループを作成し、FB 上でも一部の課題をシェアさせることによって、知識と情報の共有、クラス内でのコミュニケーションを促進した。以下は、ワークシートで使用した質問の例である。

・小さな夢から大きな夢まで思いつくこと夢を 100 書き出しなさい。
・今、海外で一番訪れたい場所はどこですか? 旅行カタログやインターネットで情報を調べ、既にその場所を訪れたという設定で旅行の感想を書きなさい。
・海外、国内を問わず、訪れたい場所を 25 か所挙げ、そこに行って何をしたいかを書きなさい。
・「20 年間自由なお金と時間をあげるので、多くの人に役立つこと、喜ばれること、自分が大好きなことをしなさい。」と言われたら、あなたは何をしますか?
・あなたが今、感謝できること、感謝している人を思いつくだけ全て書きなさい。
・あなたが憧れる人、尊敬する人は誰ですか? 3 人選び、なぜその人物を尊敬しているのか理由を説明しなさい。
・あなたの理想の 10 年後をイメージし、10 年後の自分として自己紹介文を書きなさい。

「宝地図」の効果を論理的に理解するため、ビジュアライゼーション、潜在意識、右脳と左脳の働きなどについての英語リーディング教材を用いた。また、ビジュアライゼーションや選択的注意の効果を実際に体験してみるワークも取り入れた。

さらに、新しい試みとして英語の名言を毎週発表させ、「夢を叶えるために何が必要なのか?」「成功している人物はどんな考え方をしているのか?」について日本語と英語でディスカッションする機会を設けた。

「宝地図」作成日までに、素材集めとしてカタログやパンフレット、雑誌、インターネットな

どから、自分の夢や目標をイメージさせる写真やフレーズ、座右の銘などを集めさせた。

ｂ．作成（第 8 週～第 9 週）

A1 サイズ（90cm×60cm）のコルクボードを使用し、望月・梅原（2011）が示す以下の「宝地図」作成手順に従って授業内で作成を行った（p.42）。

（1） なりたい自分のキャッチフレーズ＆名前を書く。
（2） 「最高の笑顔」を貼る。
（3） 夢を表現する写真やイラストを貼る。
（4） 夢の期限や条件を入れる。
（5） 具体的にイメージできる写真を貼る。
（6） 自分自身を勇気付ける言葉を書く。
（7） 応援してくる人の写真を貼る。

学生は「宝地図」を作成する 2 週間で、発表用スクリプトを英語で作成する課題にも取り組んだ。英語レベルが低い学生は、事前に配布されたプレゼンテーションの雛形やスクリプト例を参考に、発表用スクリプトを作成した。

ｃ．英語での発表（第 10 週～第 12 週）

「宝地図」作成後、各学生は「宝地図」について約 10 分間の発表を英語で行った。「宝地図」に貼った夢や目標が既に叶ったという設定で、現在完了形、過去形、現在形、現在進行形を用いて説明をした。発表者以外の学生は、発表をよく聞き、印象に残った部分や素晴らしかった点についてポストイットに 2～3 のコメントを書き、それをフィードバックとして発表者に渡した。

発表後は「宝地図」を自宅へ持ち帰り、いつも見える場所に置いておくよう指示した。また、自分の「宝地図」を写真に撮り、コンピューターの待ち受け画面やスクリーンセーバー、FB の壁紙などに使うこと、そして FB や LINE などの SNS でシェアすることを促した。「宝地図」を見ていて浮かんだアイデアはすぐ実行に移すように説明し、「宝地図」に貼った夢や目標に関して何かが進展があったり実現した場合には FB で報告することを伝えた。

３．データ分析方法

学生の変化を測定するために、コースの事前・事後にアンケート調査を実施した。事前・事後アンケートはローゼンバーグによる自尊感情尺度の邦訳版[41]（10 問）、板津（1992）による生き方尺度[42]（28 問）、英語に関する質問項目（5 問）から構成された 43 問を用いた（付録 1）。「全

く当てはまらない」（1 点）から「非常によく当てはまる」（5 点）までの 5 件法を用い、それぞれのカテゴリーで単純加算した。ただし、逆転項目については反転後の得点を加算した。事前と事後の得点を比較するために、自尊感情尺度、生き方尺度、英語に関する質問項目それぞれにおいて *t* 検定を行った。

また、学期末には「そう思わない」（1 点）から「そう思う」（5 点）までの 5 件法を用いた「宝地図」作成及び発表に関する追加アンケートを実施し、各質問に対して自由記述欄も設け学生に感想を記述してもらった。

Ⅴ．結果

事前・事後アンケートで測定された分析の結果を表 1 に示した。

表 1．*t* 検定の結果

	N	事前アンケート 平均	事前アンケート 標準偏差	事後アンケート 平均	事後アンケート 標準偏差	*t* 値	*p*	
自尊感情尺度	22	32.14	7.815	34.73	8.282	2.997	0.007	**
生き方尺度	22	105.05	14.650	108.82	17.300	2.088	0.049	*
英語に関する質問項目	22	21.50	2.632	21.59	2.576	0.289	0.776	

** $p < 0.01$, * $p < 0.05$

「自尊感情尺度」については $t = 2.997, p < 0.01$ となり事後の得点が有意に高かった。積極的・肯定的な生き方を測定する「生き方尺度」についても $t = 2.088, p < 0.05$ で事後の得点のほうが有意に高かった。

学期末に行った追加アンケートでは 82%の学生が「宝地図作成はこれからの人生に役に立つ」と回答した。「宝地図」がどのように人生に役立つと考えているかについては、自由記述欄から以下のようなコメントが得られた。

・物事をプラス思考に考えられるようになった。
・気持ちが明るくなった。
・物事を楽に考えられるようになった。
・夢ができて、いつか叶えるために最善を尽くせる。目的ができた。
・夢をあきらめない。夢を叶えるために全力を尽くす。
・夢をかなえるために努力し困難を乗り越える。
・願望を持つ一方で実践も不可欠。
・いかに行動に移していけるかが大切。
・何事も前向きに取り組むようになった。

また、「宝地図作成は興味深かった」かという質問に対して約 90%の学生が「そう思う」「どちらかというとそう思う」と回答した。

次に、英語に関する質問項目については、事前と事後で有意な差は見られなかった。追加アンケートで「宝地図」が英語学習に及ぼした影響についての質問項目の結果を図 2～図 5 に示した。

質問 1 の「英語で宝地図を発表するのは難しかった」かについては平均値は 3.7 であった。結果にばらつきが見られるのは、学生の英語レベルにかなりの差があったためであると推測できる。「そう思う」「どちらかというとそう思う」と回答している学生の合計が約 64%に上り、夢を英語で発表することはかなり難しい取り組みであったことがうかがえる。「そう思わない。」と回答した 1 名は、英語力の高いインドネシア人留学生であった。

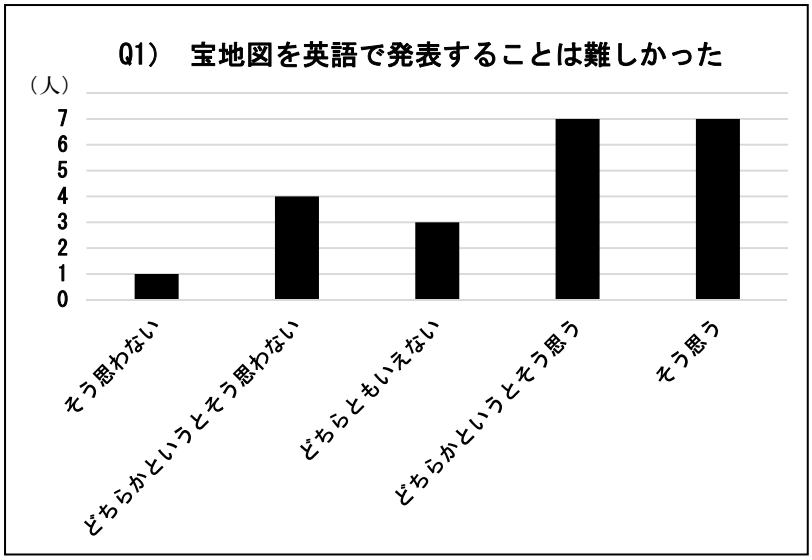

図 2. Q1）宝地図を英語で発表することは難しかった

質問 2 の「宝地図を英語で発表することは興味深かった」かについては、82%の学生が「そう思う」あるいは「どちらかというとそう思う」と回答した。以下は、自由記述の一部を抜粋したものである。

・頭の中で想像しているだけよりも話しているときのほうがイメージしやすくなりました。
・自分の夢を話すことはとても楽しく、ワクワクした。
・自分の宝地図を見ていると自分の欲しいものが明確にすることができて自分を再発見できたようでうれしかった。
・過去形で話すことで途中から本当に経験したような気分になるし頭の中で映像とイメージが湧

いてきた。

・クラスメートの発表を聞いて夢が広がった。

・他の人の夢を聞くだけで楽しくてワクワクした。

・クラスメートの宝地図を見て、忘れてしまっていた夢をまた思い出した。

・クラスメートの発表を聞いていると、本当にその人が体験したように思えてきました。

・人それぞれ違った夢があるということがわかって感動した。

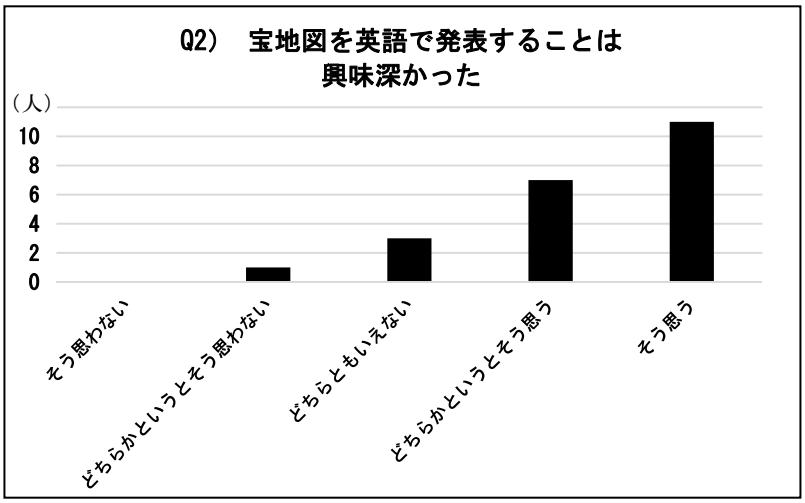

図 3.　Q2）宝地図を英語で発表することは興味深かった

「英語で宝地図を発表することは英語学習に役立った」かという質問 3 に関しては約 77%の学生が「そう思う」あるいは「どちらかというとそう思う」と回答した。

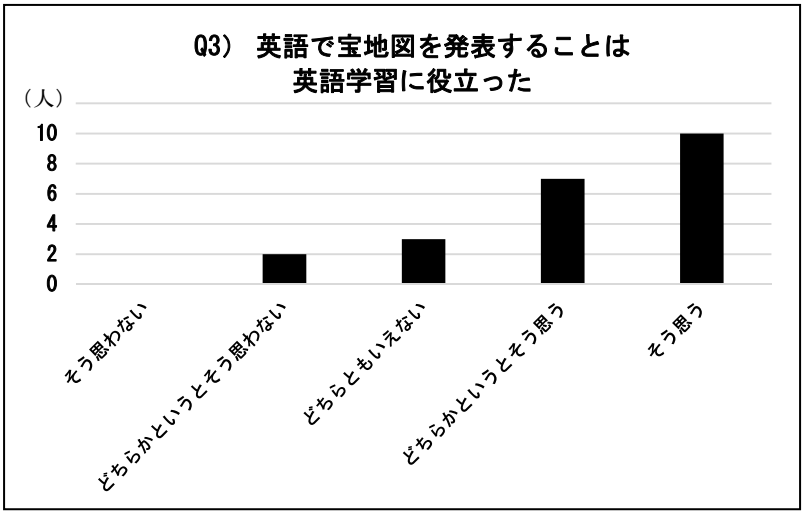

図 4.　Q3）英語で宝地図を発表することは英語学習に役立った

具体的な記述としては以下のようなコメントが見られた。

・自分の思っていることを英語で発表となるとよく考え、話し方に気を使うのでよかった。
・アクセントの置き方が日本語とは大きく違うと感じ次回への課題が見つけられた。
・自分のしたいことを英語で話す能力を身に着けることができた。
・海外に行ったときに自分の好きなことや目指していることを話せるようになるための、いいきっかけになった。
・人前で話す能力向上に非常に役立った。
・長文の書き方やこつがつかめた。

「どちらかというとそう思わない」と回答した 2 名の学生は「難しすぎた」「自分がいつも使っている単語だけでプレゼンテーションが作れたから」という理由であった。

質問 4 の「英語で宝地図を発表したことで英語学習に対する意欲が高まった」かについては、22 人中 16 人が「そう思う」あるいは「どちらかというとそう思う」と回答し、平均値は 4.1 であった。

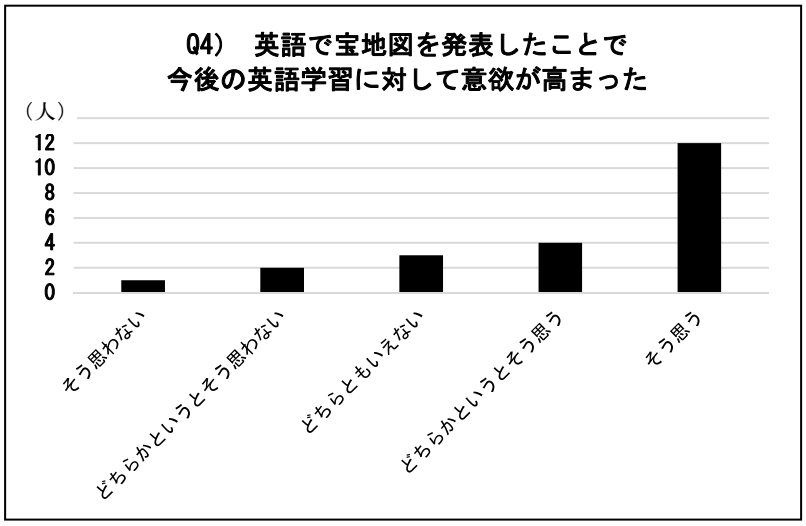

図 5.　Q4）英語で宝地図を発表したことで今後の英語学習に対して意欲が高まった

意欲が高まった理由としては以下のようなコメントが見られた。

・さらに文法力を上げていこうという気持ちが高まった。
・もっと英語をうまく話せるようになりたいと思った。
・もっと発音練習をしたい、語彙力をあげたい。

・英語が必要な能力であることをさらに感じ取った。
・自分の考えを英語で他者に理解してもらえるレベルまで英語力を伸ばそうと思った。
・自分の言葉でもっと人を動かせるようなプレゼンテーションをできるようになりたい。
・より英語を話せるようになり、世界の人に自分の考えを伝えたいと考えることができた。
・海外で仕事がしたいので、英語へのモチベーションがあがった。

「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答した学生の理由は以下の通りである。
・人生に対する考え方に対して受けた大きなプラスの影響に比べると、英語に対する意欲の変化のほうが少なく感じた。
・普段のプレゼンテーションと比べてあまり変化がなかった。
・少し面倒くさかった。

Ⅵ．考察

本研究では前回と同じ 2 つの研究課題を設けた。研究課題 1 は「宝地図」が学生の夢を描く力や人生に対する考え方にどのように影響を与えるかについてであった。学期初めと学期終わりに行った事前・事後アンケート調査結果からは、「宝地図」が自尊感情を高め、肯定的な生き方に影響を与える効果があったことが明らかになった。22 人中 13 人が「物事をプラス思考に考えられるようになった」「気持ちが明るくなった。」「物事を楽に考えられるようになった」など、考え方や気持ちの変化についてコメントしている。「宝地図」作成過程において自分の好きなことや得意なこと、貢献できること、夢や目標、感謝などを書き出す課題に毎週取り組むことにより、常に自分の望むことに意識を向け続けたことが大きな要因の一つであろう。これは、将来の最高の自分をイメージすることや感謝できることを書き出すことが幸福度を向上させることに影響しているという King （2001） らの研究結果とも一致している。また、毎回のペアワークや宝地図発表を通じてクラスメートの様々な夢や目標を聞く機会が与えられたことで、新しい知識や情報に触れ視野が広がったことも、考え方の変化に影響を及ぼした要因であることが学生の感想からもうかがえる。このように、夢を持つことができ物事を明るく前向きに捉えられるようになったことで、セルフイメージが上がり自己肯定感が高まったことが推測できる。また、自己肯定感が高まると「やってみよう」という行動に対する意欲も喚起させられる。このような要因が合わさったことで、自尊感情が高まり、生き方が肯定的に変化したものと思われる。

宝地図発表に関しては「楽しかった」「ワクワクした」という感想が数多くみられた。特に興味深いのは「過去形で話すことで途中から本当に経験したような気分になり、頭の中で映像とイメージが湧いてきた」「クラスメートの発表を聞いていると、本当にその人が体験したように思えてきました」「大成功しているイメージが伝わってきてニヤニヤしてしまった」というコメントであり、

これは脳が実際に起こっていることとイメージしていることを錯覚し、ビジュアライゼーションが自然に起こった可能性を示している。また、「宝地図」は発表時だけでなく作成後も目に見えるところに置いて眺めるツールであるため、夢や目標を既に叶えた自分の理想の姿を何度も見ることで、自己実現の状態をビジュアライゼーションさせ、セルフイメージを高める効果があると言えよう。

自由記述欄には行動に関する記述も多く見られた。「夢を叶えるために全力を尽くす」「いかに行動に移していけるかが大切」「夢ができたので、いつか叶えるために最善を尽くそうと思う」といったように、夢が描けるようになったことでその夢に向かって行動していこうという態度が育まれ、能動的実践態度が高まったと推測される。実際、受講した学生の中には「宝地図」に貼った夢の一つを既に実現した学生もおり、「宝地図」は考え方の変化だけではなく、自主的な行動を促す効果もあると言えよう。

また、以前に「宝地図」を作成したことがある学生 2 人から「前回作成した宝地図を久しぶりに見てみると、いくつも夢が叶っていたので不思議です」という報告があった。これは「宝地図」がプライマーとして作用し、「自動動機」（Bargh,1990）を喚起させ、本人も自覚しない目的追求行動が起こった可能性を示唆している。

このように、「宝地図」作成から発表までの全過程を通じて「夢や目標が明確になり考え方がプラス思考に変化し、セルフイメージが高まり自信を持てるようになった」ことが自尊感情を高め、人生に対する考え方を肯定的に変化させたと考えることができるであろう。本研究の結果は「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」（2014）による「自分への満足感、自己肯定感が高い若者は、自分の将来への希望を持っている割合が高かった」という結果とも一致している。

研究課題 2 は「宝地図」を CLIL プログラムとして英語授業に導入することにより、学生の英語に対する学習意欲が高まるかについてであった。事前・事後アンケート結果の比較からは明らかな差は認められなかった。

第 1 の要因として考えられるのは、事前アンケートでの得点の高さである。英語に関する質問 5 問での平均値は 21.50（25 点満点中）と非常に高かった。これは「英語で学ぶ成功哲学」が選択クラスであったことにも起因しているが、22 人の受講生のうち 15 人が、英語を集中学習するためのコースである英語特別選抜クラス、あるいはグローバル・スタディーズ・プログラムに所属する学生であったことも大きな要因であろう。事後アンケートで有意な差が見られなかったのは「英語で学ぶ成功哲学」を受講する以前から、英語学習に対して非常に興味があり意欲の高い学生が履修したことがうかがえる。

第 2 の要因として考えられるのは、学生間の英語力の差である。TOEIC®で 300 点に満たないレベルから 800 点を超えるレベルの学生が混在する中で、英語力の低い学生に合わせたレベル調整や、日本語を使用する割合を増加させるなどの対策を講じたが、すべての学生を満足させること

は非常に困難であった。「英語に触れた時間が他の授業に比べて少なかった」「英語でのプレゼンテーションの機会がもっとほしかった」などのコメントからも推測できるように、英語力が高い学生にとっては課題の量や難易度がニーズに即していなかった可能性が考えられる。

また、質問項目数が 5 問と少なく、英語学習意欲以外の質問も含まれていたことも、有意な結果が得られなかった原因である可能性も否めない。

実際、学期末に行った追加アンケートからは、自分の夢や目標を「宝地図」を使って発表することに対して大半の学生が好意的な反応を示しており、英語学習意欲の向上につながる可能性が示された。

まず興味深いのは、質問 1 で「英語で宝地図を発表するのは難しかった」と答えた 14 人のうち、12 人もの学生が「宝地図を英語で発表することは興味深かった」と質問 2 で回答している点である。これは「宝地図」を英語で発表することは難しいと感じているにも関わらず、興味深く取り組むことができたと評価しているということであり、教科内容に興味を持つことで手段としての英語に取り組む意欲も刺激されるという CLIL の特徴を表している。

質問 4 のコメントからは、英語で行った「宝地図」の発表は文法力や語彙力、会話能力といった英語能力自体を高めたいという意欲だけにとどまらず、「世界の人に自分の考えを伝えたい」「自分の考えを英語で他者に理解してもらえるレベルまで英語力を伸ばそうと思った」というコメントに見られるように、和泉・池田・渡部（2012）が CLIL の長所として挙げている「統合的動機」[43] も喚起されたと予測できる。

また、自分以外のクラスメート 21 名全員の夢を聞くことによる影響も見られた。「ひとそれぞれ違った夢があるということがわかって感動した」「発表を聞いていて自分まで応援したくなった」というコメントからは CLIL の特徴の一つである Culture（コミュニティーにおける他者の理解、学び合いや教えあいを通じての協学）を映しだしているものと思われる。

今後の課題としては、「宝地図」を英語授業に組み込んだ CLIL プログラムをさらに充実した内容として提供するため、まずシラバスの再検討が挙げられる。柔軟性のあるシラバスデザインが可能であるという CLIL の長所を生かし、受講生のレベルに適応した教科内容、教科学習と英語学習の比率、日本語と英語との使用比率、指導法等を再検討する必要があろう。英語能力によるクラス分けや適切な受講人数についても検討課題の一つである。

また、CLIL の概念は比較的新しく周知されていないため、CLIL に対する理解を高めていくことも求められる。英語能力向上だけを目標とした一般の英語授業とは特徴が異なるため、明確な到達目標や学習内容をシラバスに明記し履修する学生に理解を促すことも必要であろう。

さらに、本研究で確認された自尊心や自己肯定感、能動的実践態度の向上が、「宝地図」作成後の学生の行動にどのような影響を及ぼしていくか、また「宝地図」に貼った夢や目標がどの程度叶っていくかを追跡調査することで、「宝地図」の効果をさらに明らかにすることができるであろ

う。

Ⅶ. 終わりに

本研究の目的は、自己実現ツールである「宝地図」を CLIL プログラムとして大学英語授業に導入することにより、夢を描く力や人生に対する考え方、そして英語学習意欲がコース受講前と受講後にどのように変化するかを検証することであった。

「宝地図」は受講生の自尊感情を高める効果があることが明らかになった。また、夢や希望を持ち、物事を肯定的、前向きに捉えることができるようになるなど、人生に対する考え方や態度に変化をもたらす効果があることが明らかになった。さらに、英語学習意欲を高める可能性があることも示唆された。

グローバル化がますます進んでいく時代に、日本と世界の架け橋となり国際社会で活躍できるグローバル人材を育成することは今後ますます必要になっていくであろう。英語をコミュニケーションツールとして使えるだけでなく、自己を肯定的に捉えることができ、自分の将来、そして世界の将来について夢を描き、主体的に考え行動できる青少年が増えていくことを願ってやまない。

謝辞

本研究に情報をご提供いただきましたヴォルテックス有限会社の望月俊孝氏、一般社団法人ドリームマップ普及協会、また、本稿の執筆にあたりご助言をいただきました流通科学大学の池田曜子氏に心より感謝申し上げます。

引用文献、注

1）「宝地図」はヴォルテックス有限会社の登録商標

2）内閣府資料：「平成 25 年度 我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」2014 年 6 月記事
http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/thinking/h25/pdf_index.html , 2017 年 8 月 22 日取得

3）総務省資料：「労働力調査（基本集計）平成 28 年（2016 年）平均（速報）」2017 年 1 月 31 日記事
http://www.stat.go.jp/data/roudou/sokuhou/nen/ft/pdf/index1.pdf , 2017 年 8 月 22 日取得

4）厚生労働省資料：「新規学卒者の離職状況」
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000137940.html , 2017 年 8 月 22 日取得

5）文科省資料:「キャリア教育推進の手引」2006 年 11 月記事
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/070815/all.pdf , 2017 年 8 月 22 日取得

6）社団法人国立大学協会 教育・学生委員会「大学におけるキャリア教育の在り方」2009 年 12 月 1 日記事
http://www.janu.jp/active/txt6-2/ki0512.pdf , 2017 年 8 月 22 日取得

7）文科省資料:「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」
http : //www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/12/1342458.htm , 2016 年 8 月 22 日取得

8） 文科省資料: 「今後の英語教育の改善・充実方策について報告（概要）～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～」2013 年 12 月 13 日記事
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/102/houkoku/attach/1352463.htm , 2017 年 8 月 22 日取得

9） 「ドリームマップ」は一般社団法人ドリームマップ普及協会の登録商標

10）Paivio, A.: *Mental representations: a dual coding approach.*（Oxford University Press, Oxford, 1986）.

11）Pascual-Leone, A., Amedi, A., Fregni, F., & Merabet, L.B.:“The plastic human brain cortex”, *Annual Review of Neuroscience,* vol.28（2005）377-401.

12）Ranganathan, V.K., Siemionow, V., Liu, J.Z., Sahgal, V., & Yue, G.H.: “From mental power to muscle power – gaining strength by using the mind”, *Neuropsychologia,* 42, Issue 7（2004）944-956.

13）Shackell, E.M., & Standing, L.G.: “Mind over matter: Mental training increases physical strength”, *North American Journal of Personality and Social Psychology,* 9, No.1（2007）189-200.

14）Yao, W.X., Ranganathan, V.K., Allexandre, D., Siemionow, V., & Yue, G.H.: “Kinesthetic imagery training of forceful muscle contractions increases brain signal and muscle strength”, *Frontiers in Human Science,* 7, Article 561（2013）1-6.

15）Yue, G., & Cole, J.: “Strength increases from the motor program: Comparison of training with maximal voluntary and imagined muscle”, *Journal of Neurophysiology,* 67, No.5（1992）1114-1123.

16）King, L.A.: “The health benefits of writing about life goals”, *Personality and Social Psychology Bulletin,* July（2001）798-807.

17）Lyubomirsk, S., Dickerhoof, R., Boehm, J.K., & Sheldon, K.M.: “Becoming happier takes both a will and a proper way: An experimental longitudinal intervention to boost well-being”, *Emotion,* Vol 11（2）, April（2011）391-402.

18）Seligman, ME., Steen, TA., Park, N., & Peterson, C.:“Positive psychology progress: Empirical validation of interventions”, *American Psychology,* 60（2005）411-421.

19）Sheldon, K.M. & Lyubomirsk, S.: “How to increase and sustain positive emotion: The effects of expressing gratitude and visualizing best possible selves”, *Journal of Positive Psychology,* 1（2）April（2006）73-82.

20）Shantz, A. & Latham G.P.: “An exploratory field experiment of the effect of subconscious and conscious goals on employee performance”, *Organizational Behavior and Human Decision Processes,* 109（2009）9-17.

21）Bargh, J.A., Lee-Chai, A., Barndollar, K., Gollwitzer, P.M., & Trotschel, R.: “The automated will: Nonconscious activation and pursuit of behavioral goals”, *Journal of Personality and Social Psychology,* 81, No.6（2001）1014-1027.

22）Bargh, J.A.: “Auto-motives: Preconscious determinants of social interaction”, in E.T. Higgins & R.M. Sorrentino（Ed.）, *Handbook of Motivation and Cognition,* vol.2, New York: Guilford Press. pp.93-130（1990）.

23）Bargh, J.A., Chen, M., & Burrows, L.:“Automaticity of social behavior: Direct effects of trait construct and stereotype activation on action”, *Journal of Personality and Social Psychology,* 71, No.2（1996）230-244.

24）Bargh, J.A., Lee-Chai, A., Barndollar, K., Gollwitzer, P.M., & Trotschel, R.:“The automated will: Nonconscious activation and pursuit of behavioral goals”, *Journal of Personality and Social Psychology,* 81, No.6（2001）1014-1027.

25）及川昌典: 「テスト状況における達成プライミングの効果」, 『教育心理学研究』53,（2005）297-306.

26）千葉日報: 『夢の実現へ信じる心育む「宝地図」描く』2012 年 12 月 4 日, p10.

27）渡邉尚久: 『7 つの習慣　小学校実践記 2』（キングベアー出版, 2006）, pp.178- 189.

28）望月俊孝・梅原伸宏: 『親と子の夢をかなえる「宝地図」』（プレジデント社, 2011）.
29）宝地図公式サイト: https://asp.jcity.co.jp/FORM/?UserID=vor&formid=602 , 2017 年 8 月 22 日取得
30）「夢を叶えるキャリア教育セミナー～『まんが教育』と『宝地図』で実現力を育む～」
http://kyoiku-kakehashi170821.peatix.com/?lang=ja , 2017 年 8 月 22 日取得
31）一般社団法人ドリームマップ普及協会: 『学校ドリームマップ授業平成 28 年度実施報告書』（2017）.
32）経済産業省資料:「第 7 回キャリア教育アワードエントリー事例・受賞事例紹介」, 2017 年 8 月 22 日取得
http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/career-education/7th_award_report.html
33）「ドリマ先生」は一般社団法人ドリームマップ普及協会の登録商標
34）ドリームマップ普及協会公式サイト: http://www.dream-map.info/society/project.html , 2017 年 8 月 22 日取得
35）濱田真由美:「大学英語授業における「宝地図」活用法に関する研究」, 『流通科学大学論集－人間・社会・自然編－』29, No.2（2017）81-99.
36）船田秀佳: 『シンクロマインドの法則　宝地図®への招待』（アルマット, 2012）.
37）愛知教育大学サイト: http://www.aichi-edu.ac.jp/pickup/2016/08/22_005642.html , 2017 年 8 月 22 日取得
38）慶応義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科: 『慶應 SDM ヒューマンラボ主催「夢と未来を描き可視化する手法」のシンポジウムと体験会 ～ドリームマップ、宝地図、ビジョンボード～』
2016 年 5 月 18 日記事 http://www.sdm.keio.ac.jp/2016/05/18-090328.html , 2017 年 8 月 22 日取得
39）Takatsuna, M. & Shimizu, K.: “The research on the effectiveness of career education in elementary and junior high schools: Focusing on comparison of before and after “Dream Map®” making”, Paper session presented at the 2015 conference of International Association for Educational and Vocational Guidance, September 20（2015）.
40）Coyle, D., Hood, P., & Marsh, D.: *CLIL Content and Language Integrated Learning*（Cambridge University Press,Cambridge, 2010）, p.1.
41）山本真理子・松井豊・山成由紀子: 「認知された自己の諸側面の構造」, 『教育心理学研究』30,（1982）64-68.
42）板津裕巳: 「生き方の研究 ― 尺度構成と自己態度との関わりについて」, 『カウンセリング研究』25,（1992）85-93.
43）和泉伸一・池田真・渡部良典: 『CLIL（内容言語統合型学習） 上智大学外国語教育の新たなる挑戦 第 2 巻 実践と応用』（上智大学出版, 2011）, p.7.

付録 1

「英語で学ぶ成功哲学」　アンケート２

日付：(　　)年(　　)月(　　)日
学部、学科：(　　)学部（　　)学科
学年：(　　)年生
名前：(　　)
学籍番号：(　　)

以下の各項目について、あなた自身にどの程度あてはまるかをお答えください。（他からどう見られているかではなく、あなたが、あなた自身をどう思っているかをありのままにお答えください。）アンケート結果は学術研究のためのみに用い、個人情報は決して公開いたしません。

	非常によく当てはまる	だいたい当てはまる	どちらともいえない	あまり当てはまらない	全く当てはまらない
1.少なくとも人並みには、価値のある人間である	5	4	3	2	1
2.色々な良い素質をもっている	5	4	3	2	1
3.物を人並みには、うまくやれる	5	4	3	2	1
4 自分に対して肯定的である	5	4	3	2	1
5.だいたいにおいて、自分に満足している	5	4	3	2	1
6.自分は全くだめな人間だと思うことがある	5	4	3	2	1
7 努力をおしまずに、自分の出来ることに向かって完全燃焼する	5	4	3	2	1
8.自分の持っている潜在的可能性を追求しつづける	5	4	3	2	1
9.他者との関わりを大事にする	5	4	3	2	1
10.過去の失敗をくよくよ後悔しない	5	4	3	2	1
11.他人と争うようなことはしたくない	5	4	3	2	1
12.自分のやることに最善の努力を尽くす	5	4	3	2	1
13.もっと自分自身を尊敬できるようになりたい	5	4	3	2	1
14.自らを創造・開発していく	5	4	3	2	1
15.何事も人間１人の力で出来るものではないから、お互いの協力を大事にする	5	4	3	2	1
16.何かに失敗しても混乱したり絶望したりしない	5	4	3	2	1
17.何かにつけて、自分は役に立たない人間だと思う	5	4	3	2	1
18.周囲の人と利害関係を離れた付き合いをする	5	4	3	2	1
19.時間や物を無駄にしない	5	4	3	2	1
20.将来に希望と期待をいだいている	5	4	3	2	1
21.他人には誠実な心を持って接する	5	4	3	2	1
22.事実をわだかまりなく、さっぱりと受け入れる	5	4	3	2	1
23.他人をないがしろにしない	5	4	3	2	1

	非常によく当てはまる	だいたい当てはまる	どちらともいえない	あまり当てはまらない	全く当てはまらない
24.今という時を大切にする	5	4	3	2	1
25.敗北者だと思うことがよくある	5	4	3	2	1
26.自分のやるべきことは責任を持ってやり遂げる	5	4	3	2	1
27.自分自身にこだわりを持たない	5	4	3	2	1
28.自分の欲望のためには他人に迷惑をかけてもかまわない	5	4	3	2	1
29.義務や責任を進んで果たす	5	4	3	2	1
30.自分のなかに好まない面を見つけたら、かくすよりも良くしていこうとする	5	4	3	2	1
31.自分には、自慢できるところがあまりない。	5	4	3	2	1
32.出来るだけ多くの物事を見聞きしようとする	5	4	3	2	1
33.自分自身の行為に自信を持っている	5	4	3	2	1
34.何か自分の出来ることに専心する	5	4	3	2	1
35.何事にも興味と好奇心を持って接する	5	4	3	2	1
36.かけがえのない生命を精一杯生きる	5	4	3	2	1
37.自分の良い面は否定せずに素直に受け入れる	5	4	3	2	1
38.何事も自分のことは自分でやる	5	4	3	2	1
39.英語が好きだ	5	4	3	2	1
40.英語が得意だ	5	4	3	2	1
41.英語力を向上させたい	5	4	3	2	1
42.英語学習に興味がある	5	4	3	2	1
43 これからの時代を生き抜くのに英語は必要だ	5	4	3	2	1

ご協力ありがとうございました。

参考:

自尊感情尺度: Q1~6, 13, 17, 25, 31　（逆転項目は Q13, 17, 25, 31）

生き方尺度: Q7~12, 14~16, 18~24, 26~30, 32~38（逆転項目は Q28）

英語に関する質問: Q39~43